

慈雲山 蓮教寺報

Vol.0

編集発行

〒501-0475 岐阜県本巣市浅木 120 番地

# 蓮教寺だより

慈雲山 蓮教寺

Tel 058(323)0597

<http://www.renkyoji.com>



蓮教寺は、2024(令和6)年に、開基(創建から)900年をむかえます。

私たちは、自分が主人公のドラマを生きています。きっと自分にとって都合の良い人が「良い役」で、都合の悪い人が「悪役」なのではないでしょうか。

悪役の人からみたら、自分もやっぱり悪役で、恐ろしい顔なのかもしれません。だれでも主人公、だとして誰にでも優しい心で接してくれる方がおられて、その心のことを“慈悲”といいます。

慈悲の心がすぐそばにあることに気づく人生をあゆみたいものです。

おが  
拝まない者も

おがまれている

拝まないときも

おがまれている

真宗教団連合法語カレンダ―

十一月のことば

東井義雄

# みんなの法話

## 親鸞聖人いまさすは

『慈悲の仏さま』

親鸞聖人は、『高僧和讃』の善道大師を讃えるご和讃で「釈迦弥陀は慈悲の父母」と讃えられ、そのお心を「釈迦は父なり、弥陀は母なり」とたとへたまへり」と示されました。阿弥陀さまの慈悲を、母の子を思う心にととえておられます。

ところで私には七歳下の弟は、歳がいます。歳が七つ離れていすので、彼が小さい時のことをよく覚えています。

弟が幼稚園に通っていた昭和50年頃のことです。当時は近所の子どもたちが、お互いの家上がり込んで遊ぶことも多かった、のどかな時代でした。

小学校の5年生ぐらいだった私が学校から家に帰ると、玄関に何人かの制服の警察官いて、母と話をしていました。その母の顔は

それまで見たことのない顔で、涙を流しながら真剣に話あっています。

何があつたのか訊ねると、「弟がいなくなった」との事でした。はじめは、いつも通り近所の家にいるのだろうと安心していましたが、夕方になって友人宅を探してみても「いない」との返事。だんだん不安になって、近くを探しまわっても見つからず、とうとう警察に連絡をしたようです。

おろおろしながら状況を話す母と、真剣に、そして時に落ち着かせるような穏やかな表情で聞いている警察官、緊迫した時間が流れていました。そこへ「ただいま！」と笑顔で弟が帰ってきました。

どうやら、よく遊んでいる友達と、そのご両親に連れられて出かけていたということでした。その

ご両親も“おおごと”になっていたわが家に対し、申し訳なさそうにその時の様子を話しておられました。

母は5歳の弟を抱きかかえて、「よかった、よかった」「ゴメンね、ゴメンね」と涙を流しながら笑顔で呼びかけていました。一方、弟はというと、何があつたのか？お母さんは何故泣いているのか？という様子で、きよとんとしていたのが印象的でした。

親は、子どもが生まれるよりも前から、子どもに語りかけ、子どものものを背負う決意をもって親の名乗りをします。その心は、仏さまの大いなる慈悲のお心と比べることはできませんが、親鸞聖人は「弥陀は母なり」とお示しにられました。

涙を流す母親に抱きかかえられても、きよとんとしている子どものように、私たちも阿弥陀さまの慈悲をすぐには感じられなくても、母のような阿弥陀さまのお慈悲につつまれていると、親鸞聖

人はおたとえになられているのではないでしょうか。

私たちを「決して見捨てない」と誓われる仏さまの大慈悲は、私たちにはなかなか感じ取れないのかもしれない。しかし、だからこそ、私たちが感じ取ることのできる心の一つ、親の心でたとえられるでしょう。

その大悲心は「あなたを必ず救いとる、仏にする」というはたらきであり、お育てです。その心につつまれて生きる私たちは、「自分だけを大事にすることなく人と喜びや悲しみを分かち合います 慈悲に満ちみちた仏さまのように」と、ご門主が「私たちのちかい」に示された通り、仏さまになるこのいのちを、喜んで生きたいと思えます。

『本願寺新報十一月一〇日号』掲載

蓮教寺住職 高田篤敬 法話

# 蓮教寺開基900年記念事業に向けて

## 記念事業通信 その① -募財がはじまりました-

■ 昨年12月の総代会で、『蓮教寺開基900年記念事業』の基本計画について、ご決定をいただきました。この事業は、2024（令和6）年に“蓮教寺開基（創建から）900年”をお迎えするにあたり、高田勝巳様（前責任役員）と若原三夫様（現責任役員）を中心に打ち合わせ回数を行い、近隣のご寺院を見学させていただいて、計画しました。

■ 計画は①記念法要の勤修 ②本堂の耐震補強 ③伽藍（本堂・庫裡など参拝の施設）のバリアフリー化 ④これらの実現のための境内地整備 を中心に策定されたものです。

■ 計画に必要な期間は、2020（令和2）年から5年間の予定で、2024（令和6）年に記念法要を落成慶讃法要としての修行をめざします。

■ 記念事業の総経費は、7千万円を予定しています。そのうち4千万円をご門徒の皆さまにご懇志としてお願いし、残りの3千万円を寺院（蓮教寺）からの拠出（1千万円）し、特別懇志（10年間のご葬儀での永代経など）を2千万円の計画です。

○ 今後、この紙面を通じて随時計画の進捗状況（どのくらい進んでいるか）についてをお知らせしていく予定でございます。

○ 今回は、その第1回として計画の主な内容と募財についてお知らせします。

### ▼ 計画の主な内容

本年の始め頃に起こりました「新型コロナウイルス感染症の拡大」について、感染拡大予防の観点から、「三密（密閉空間）（密集場所）（密接場面）を避けましょう」という方針を受けて、蓮教寺でも極力「人が集まることを避ける」ことに注意してきました。

そのため、昨年に概ねご決定いただいた事業の計画を少し見直ししながら計画を進めたいと考えています。

○ 2021（令和3）年の夏ごろから

**本堂の耐震工事・諸施設のバリアフリー化・会館の建設** を行うため境内地整備（本堂の耐震と諸施設のバリアフリー化、）会館建設を同一の業者さまにご依頼して、同時に行うことで経費を軽減する）

○ 2022（令和4）年の秋から

今、境内地に建っている建物で老朽化の進んだものの撤去

○ 2023（令和5）年の秋から

必要な建物のバリアフリー化、本堂の耐震補強、会館の建設工事

○ 2024（令和6）年の春

完成をうけて、記念法要の勤修

### ▼ 募財

○ 懇志額（予定表）の集計

多くの地区（一部除く）から総代様を通じて懇志進納予定をご報告いただきました。

○ 懇志の進納

すでに、1月、3月、9月に総代様を通じて完納いただいた地域もあり、また郵便振込や銀行口座送金をご利用されて、順調にご懇志を進納いただいています。

○ 次回から、進納の様子を少しずつ具体的にご報告いたしたいと思っております。



- ◆令和2年に入ってすぐから「新型コロナウイルス」という言葉を毎日テレビや新聞などで聞くようになりました。蓮教寺でも春の「仏教婦人会総会」「入学祝い・初参式」の中止や、永代経・お盆会などの法座で3密をさけての修行と、影響を受けました。
- ◆その中でも、お寺と皆さまを結ぶ“てだて”を持ちたいとの願いから『蓮教寺だより』を発刊することにいたしました。
- ◆第1号は12月中旬の発行を予定しています。

### 本山からのメッセージ

新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの日常は大きく変化しました。「新しい生活様式」という名のもと、試行錯誤続いています。このコロナ禍の生活のなか、改めて我が身のすがたを見つめさせていただくことの大切さを感じます。

私たちは、ひとりぼっちでいる時、孤独を感じます。また、たくさんの人に囲まれていても、孤独感にさいなまれることもあります。私たちは、心のどこかに孤独を抱えて生きているのかもしれない。

私が、一人で悩み苦しんでいるとき、もし私の気持ちを100パーセントわかってくれる人がいれば、孤独感がやわらくことでしょう。

阿弥陀さまという仏さまは、つねに生きとし生けるものすべてに対して、「必ず救う、われにまかせよ」と呼び続けてくださっています。そのような仏さまに出あわれた親鸞聖人は、「四海のうちみな兄弟なり」と示され、仏さまの前で手を合わせる人は、お念仏を通して、すべての人びととつながっていることをよこばれています。

仏さまの前で手を合わせていると、なぜか、ほっとします。それは、仏さまを通して、つながりの中に生かされている温もりを感じているからではないでしょうか。

だから、一人でも、決して独りではないのです。

## 法座・法座のご案内

12月31日（木）

除夜会・元旦会 除夜の鐘

午後11時30分 除夜会おとめ

午前零時30分 元旦会おとめ

※今年はいよいよ三密を避けるため、大晦日の

午後十一時三〇分から、元旦午前零

時三〇分まで、自由に鐘をついていた

できます。（なるべく、行列にならない

ように本堂などで様子をみてください）

ご家族皆さままでお参りください。

家族礼拝 かぞくらいはい

毎月第二土曜日（月を除く）

午前8時から1時間

※蓮教寺では、毎月第二土曜日を

「家族でお寺にお参りしましょう」と

家族礼拝を行っています。

お勤めの練習や、仏事のイロハ

茶話会など

どなたでも、ご参加ください